



博士 (人間科学) 学位論文 概要書

スポーツ指導の効果的な実践に関する研究

2000年1月

早稲田大学大学院人間科学研究科

石井信輝

指導教授 太田富貴雄

本研究の目的は効果的なスポーツ指導実践に関して国際比較というアプローチを用いて科学的に検討し、具体的な提言を行うことであった。従来からスポーツ指導は指導者の経験的な側面から得られた知見によって実践されてきた。しかしながら、経験的側面のみによる指導実践には限界があり、より効果的なスポーツ指導の実践を目指すためにはスポーツ科学に関連する諸科学的の知見に立脚して行う必要がある。国際比較研究という手法もスポーツ科学に関連する諸科学の内の一つであり、実際この手法を用いた研究によって効果的なスポーツ指導の実践に向けてかなりの成果があげられてきた (Benett, 1983)。

ところで、本研究の対象にはフランスと日本を取り上げ、ラグビー競技を中心にその指導体系を精査し、両国における指導体系に関する特徴を析出することとした。フランスを調査の対象とした理由は、独自のプレイスタイルを持ち、実力的にも世界レベルであること。また、本研究領域においてはほとんど取り上げられたことがなく、効果的な指導実践に関する新しい知見を得られる可能性を秘めていると考えられたためである。また、異なる環境において指導された選手が異なる特徴を持つかどうかということ、これまでの研究で行われてきた生理学的な観点からではなく、ラグビーポジションの認知構造を分析するという新しい観点から比較することによって、検討を加えることとした。ラグビーポジションの認知構造の分析には、多次元尺度構成法 (MDS: Multidimensional Scaling) の一つである INDSCAL (Individual Differences Scaling) を援用した。この手法は、社会心理学の領域において認知における個人差を検討する手法として広く用いられ、落合・山本 (1991) によってスポーツ科学の分野に応用された手法である。

第1部においては、両国の指導体系における特徴を析出するために、競技形態、体格、実際に行われている指導方法、指導者の養成制度、およびナショナルスポーツセンターという項目に関する調査を行った。その結果、フランスの指導体系における特徴を以下のよう示した (第3部章)。

1) 競技形態

各年齢層において競技会への参加が実力によってカテゴリー分けされていること。

リザーブのプレイヤーを対象とした公式戦があり、リザーブもレギュラーと同様競技に参加する機会が保証されていること。

高校生以下においてもトーナメント方式ではなくリーグ戦形式の競技形態であること。

2) 指導形態

異なるポジションを多く経験させ、ポジションの決定までに複数のポジション経験をさせていること。

地方組織と緊密な関係を図ることによって選手のリクルーティングシステムを整備し、分散型の育成ではなくピラミッド型で選手の育成を行っていること。

3) 指導者養成制度

指導を行う対象によって必要となる資格を明確にしていること。

指導者としての活動を望む者は資格の取得が義務づけられていること。

大学において質の高いスポーツ指導者の養成を目指すとともに、スポーツ指導資格の取得が可能であること。

これらの結果から指導体系の整備を行う上で必要となることは、実力の拮抗したチームによるゲーム体験を増やすことのできる競技形態の創設、一貫した選手への指導を行うことが可能なシステムの構築、および競技に対する理解と科学的な知見を合わせ持った指導者を養成することであると指摘し、そのことを踏まえて具体的な提言を行った（第3部第3章）。

第2部においては両国における選手の特徴を析出するためにMDS-INDCALを援用して、両国のプレイヤーのラグビーポジションに対する認知構造の検討を行った。その結果、ラグビーポジションに対する認知構造は指導方法によって影響を受けること、すなわち、異なる指導環境で育成されたプレイヤーは異なる認知構造を持つ可能性のあることを示した。また、MDS-INDSCALによって析出された共通刺激空間のクラスター分析を行った結果、第2部第1章においては15個のラグビーポジションを6つに、第2部第2章においては4つにポジションの機能的観点からそれぞれ分類できることが示唆された。さらに、被検者空間のウェイトパターンをクラスター分析することによって、各国によって認知構造が異なることを示すとともに、認知構造における差異は高校生の段階からも生起する可能性を示唆した。

このことから、競技を遂行する上で重要となる構造としてのポジションの役割のみではなく、機能としてのポジションの役割の理解を促すには、本研究において示したポジションの機能的な観点からの分類法を用いてグループを編成し指導を行うこととの必要性を示

した（第3部第3章）。また、バランスのとれたポジション間の創出には指導の初期段階からポジションを固定せず多数のポジションを並行して指導するという方法を採用することの必要性を示した（第3部第3章）。